

令和3年度第2回東近江市地域公共交通会議要旨

令和3年12月1日（水）午前10時から
東近江市役所新館3階313、314、315会議室

- 出席者：南川会長、中村副会長、逢委員、野口委員、福島委員、河合委員、立岡氏（洲鎌委員代理）、大塚委員、鳶村委員、野村委員、松尾委員、榊原氏（飯田委員代理）、北村氏（飯田委員代理）、梅原氏（磯谷委員代理）、杉山委員、山本委員、今若委員、松浦氏（岩橋委員代理）、中島氏（大橋委員代理）、小杉委員
- 事務局：田井中担当部長、山本課長、須田課長補佐、加藤主事、福岡主事
- 欠席者：山口委員、夏原委員

1 開会 【進行：事務局】

2 挨拶 南川会長

【以降南川会長が議長となり議事を進行】

3 議事

報告事項

- (1) 東近江市コミュニティバス第5次再編計画の概要について
事務局から資料1、資料1別紙に基づいて説明。

【意見・質問】

委員 資料1別紙の4ページ（1）内（2）について「利用したい時間帯に運行していない」と記載されている。これを言われているかたはどのような方か。

「ちょこっとバスと近江鉄道（八日市駅）との接続が悪いので待ち時間が長く、不便を感じる。」「ちょこっとバス路線の運行便数、時間帯、経路の見直しが必要と思う。」と回答いただいているが、私は、公共交通機関を利用しているが、公共交通機関の時間に合わせて動くものと認識している。そもそも通勤通学時間に運行していないのであれば記載の内容は理解できるが、どのような方が言われている内容なのかお聞きしたい。

事務局 4ページで記載している利用者アンケートでは、公共交通を利用されている、されていないに関わらず回答いただいている。

「利用したい時間帯に運行していない。」を回答いただいている年齢層は様々な方が回答している。

路線の見直しについて、まずは利用いただいている方からの意見を参考

にしながら、予算等も考慮し出来るところから見直ししていきたいと考えている。

委員 利用いただいている方の利便性を上げていくことは重要なことである。利用していない方に利用して頂くのは難しいが、バスは二次交通なので、他の交通機関と時間を合わせるなど利便性を良くしていくことで利用してもらえるのではないか。そのあたりを検討して行ってほしい。

委員 利用者アンケートの中で、「バスを廃止しろ。」との意見はなかったか。
事務局 従前は、「高いお金で空気を運んでいるのはもったいない。」というような意見もあったが、近年は、「バスは必ず残してほしい。」との意見が多くなった。「乗車運賃 200 円が 500 円になっても残してほしい。」との意見もある。

委員 年齢別の集計はないのか。
資料 1 別紙 2 ページの (3) 内、モビリティ・マネジメントの項目で、「学生・保護者の公共交通利用意識向上のための取組が今後も必要」とあるが、大学生も多くの人がちょこっとバス、ちょこっとタクシーを知らない。チラシの配布などもしていただいているが、若者の公共交通離れも進んでいる。今後どういう政策を考えておられるか。

事務局 モビリティ・マネジメントについて、子どもの公共交通利用の決定権は保護者が握っている。学生の通学でも定期代が高く保護者が送迎しているとの意見も聞いている。公共交通を利用することによって保護者の送迎に対する負担の軽減など公共交通利用によるメリットも含め伝えていきたい。

また、小学校でのモビリティ・マネジメント教育実施時に授業参観として保護者にも参加していただきながら授業を行った学校もある。

委員 中学校、高校など自分で通学できる年齢層の学生に対し、公共交通利用を促していくのが良いと思うが。

事務局 地方都市は、マイカーに依存しており、公共交通にマイカーと同等以上のサービスを求められることが多くある。

地道に公共交通利用について皆さんに啓発していき、理解していただくほかないかと考えている。

先ほど指摘いただいた、「利用したい時間に運行していない。」などについては、ちょこっとバスで通学できないところはないかなど、今回の改正の中で精査し、ちょこっとバス、ちょこっとタクシーの改善案を 2 つ目の議事で説明する。改正に当たり、運行事業者の皆さんには車両、運転手の面でご迷惑をお掛けするが、利便性の向上、利用者増の観点から改正案を提案したい。

委員 中学校、高校でもモビリティ・マネジメント教育が必要との話が出たが、

県と協働で中学校、高校のカリキュラムに入れてほしいとお願いしている。しかしながら、小学校では交通環境学習をずいぶん前から行っているが、中学校、高校は先生方も手がいっぱいになかなか取り合ってもらえていない状況である。

県議会の先生方とバス協会、タクシー協会がお会いした時に中学校、高校でも授業がしたいとお願いしたところである。

(2) ちょこっとバス・タクシー運行内容の見直しについて

事務局から資料2-1、2-2、時刻表に基づいて説明。

【意見・質問】

委員 ちょこっとタクシー湖東エリアがちょこっとタクシー愛東線と統合されるとの説明であったが、停留所の位置は今と変わらず使用できるのか。現在もちょこっとバス湖東線の最終便とちょこっとタクシーの最終便が接続していない。今回改正されるちょこっとバス湖東線の早朝便についてもちょこっとタクシーと接続がないが、なにか事情があるのか。

事務局 バス停については、現在と変わらず使用いただける。
今回改正するちょこっとバス湖東線の早朝便は主に学生の通学をターゲットとしている。ちょこっとタクシーもエリアを拡大する。今後の動向を見て、バスとタクシーの接続を検討していく。
早朝便について、通勤通学に利用できない路線がちょこっとバス湖東線、南部御園線の2路線であった。両路線の改正を検討したが、運転手の勤務時間や予算の関係から湖東線のみ改正となった。今後南部御園線においても検討していきたい。

委員 市街地循環線について、駅周辺に待機しているタクシーの売上減が危惧されるが、どう考えているか。

事務局 市街地循環線については、八日市駅を中心とした市街地の活性化に重点をおき、実証実験として進めているが、タクシーの売上については、今後の動向を見ながらタクシー事業者さんと相談させていただく。

委員 ちょこっとタクシー蒲生エリアの運行時間が1時間に1本になることについて、詳しく説明をいただきたい。

事務局 例えば7時20分と7時40分に予約があった場合、運行事業者にはお手間になるが、利用者と調整し、どちらかの時間で運行する場合や7時30分など中間の時間で運行するなど調整しながら運行する。
南方面から駅に行きたい方と北方面から駅に行きたい方がいる場合は、方向が違うので2台で運行する。
従来30分前までの予約としていたが、予約時間に調整が必要になるため1時間前までの予約に変更させていただく。

- 委員 ちょこっとタクシーで2路線を1つのエリアに統合する箇所があるが、従来と変わらずエリア内は運賃200円で移動可能とするのか。
市街地循環線も運行されるが、予算面はどのようになっているのか。
どこかを廃線にするなどコストカットを行うのか。
- 事務局 改正予定の地域以外からも多数の要望をいただいている状況で、もう少し要望にお応えしたい。もう少し路線を走らせたいとも考えたが、仰っていただきましたように財政部局から厳しい意見もいただいている。
行政はスクラップ&ビルドが基本であるが、見直せるところは見直し、今まで乗っていただけていない方がどのようにしたら乗っていただけるかを考え今回の改正内容とした。
近年、クロスセクター効果という考え方があり、1つの路線を廃止することにより高齢者等の外出機会の喪失を招き重篤な病気に陥られ、その結果、介護保険料や医療費が増大することもある。ほかにも、バスや電車がなく、自宅から学校まで通えないため市外に引っ越しをすることも考えられる。
1路線2,000万円弱の運行経費が掛かってくるがちょこっとバスをキープしていくことで健康寿命の延伸や人口減少に歯止めをかけることができるとの考え方で会長や市の幹部にもご理解いただいている。
- 委員 沖野玉緒線の大森団地と宝積バス停が変更となるが、バス停の利用者数は。宝積バス停について、バス停名は同じだが違う場所に変更となる。利用者は混乱されないか。
湖東・愛東エリアのダイヤは時間によって10分発や40分発などバラバラであるが、小脇・建部エリアのダイヤは全時間00分発となっている。その違いは何か。
もう一点は質問ではないが、コロナ禍の影響によりJRさんがダイヤ改正を予定されていると聞いている。近江バスの方では、JRさんのダイヤ改正に伴いバスダイヤを改正する可能性があるためお知らせいたします。
- 事務局 沖野玉緒線の大森団地と宝積バス停については、宝積バス停を新大森団地内へ移動し「新大森団地」バス停に変更する。「新大森団地」バス停と「大森団地」バス停では同じような名称となり利用者の混乱を招く恐れがある。また、旧大森団地は今後利用の見込みがないことから、「大森団地」バス停の名称を「宝積」バス停に変更する。主に利用される地域の利用者には、混乱を招くことがないように周知を行う。
湖東・愛東エリアについては、現状のダイヤから大きく変更すると既存利用者の混乱を招く恐れがあることから湖東エリアの既存ダイヤを使用する。
小脇・建部エリアについても小脇循環線の八日市駅発の時間を引き継ぎダイヤ設計をした。

4 その他

- ・ちよこっとバス学生応援お試しキャンペーンの結果について事務局から資料3に基づいて説明。
- ・近江鉄道定期券購入支援補助金の結果について事務局から資料4に基づいて説明。

【意見・質問】

特に意見・質問なし。

5 全体を通じての質疑応答

委員 湖東地区のまちづくり協議会で能登川までのバス送迎を実施されているが、実施団体と意見交換や情報交換はされているのか。

事務局 市内でバス、タクシーを運行いただいている運行事業者さんとの意見交換の場の提供をしている。また、湖東地区のバス運行実施団体の中核で動いておられる方に対し意見交換や助言も行っている。

委員 湖東地区のバス運行をこの公共交通会議で議論することはないのか。

事務局 ちよこっとバスの再編計画や東近江市地域公共交通計画の中でも、交通網を従前の交通事業者だけでなく多様な交通主体で担っていかなければならないというのも方針の一つである。しかしながら、交通網を作るということは、まず、第一に安全輸送が確保されていること、さらに事業の永続性が保たれていることが必須の条件となっている。それらの条件が整って初めて公共交通会議の場で議論いただけると考えている。

湖東地区のバス運行実施団体の中核となっている方と意見交換をしているが、市がバックアップしながら実施していく段階には至っていないと考えている。

利用者の動向について、地域の方が困っておられるのかと、本市独自で学生の調査をした結果、八日市駅から県内の学校に通われる方が圧倒的に多かった。そうであるならば、既存で運行しているちよこっとバスや路線バスのダイヤを改善することによって、地域の方の通学に対して利便性向上を図れるのではないかと考え、今回のちよこっとバス改正案に盛り込み提案している。

湖東地区のバス運行について、全く受けしないわけではなく、安全性と永続性が担保され初めて公共交通会議で議論することができると考えている。

6 閉会 挨拶 中村副会長